

農業会議の現地推進役が「地域計画」の実現を応援

京都府農業会議の現地推進役19人が、本年度も農業委員会の農地利用最適化推進会議や地区連絡会議に参画し、農業委員・農地利用最適化推進委員とともに、「地域計画」のフラッシュアップと実現に向けた現地活動を支援する。

このうち各市町村担当の推進役(15人)は、農業委員会委員と農業関係者が集う農地農業相談の運営を支援し、関係機関と協力して、地域計画に基づき農地貸借の推進や農地利用の最適化をサポートする。

本年度に就任した推進役は、北山重敏(京丹波町担当)、永武幸子(綾部市担当)、小宅要(6月、京都市・向日市・長岡京市・大山崎町・八幡市・精華町担当)の3人で、前任者と同様に巡回支援を行っていく。



北山推進役



永武推進役



小宅推進役

京都府農林水産技術センター ほっとニゴロース

比較し、有望な3系統・品種まで絞り込んだ。全国的なサツマイモブームを背景に、丹後地域では「干し芋加工施設」が新設され、地元産サツマイモの活用が進んでいる。高品質でおいしい京都ブランドサツマイモの産地化に向けて、引き続き、丹後地域の関係者と協力して取り組みを進めていく。

丹後農業研究所

丹後農業研究所では、国営開発農地に適した京都オリジナル干し芋品種の選定と栽培技術の開発を抑制する栽培技術の開発に取り組んでいる。

干し芋品種として人気の高い「べにはるか」に替わる京都オリジナル品種の選定では、収量性とおいしさを重視。おいしさについては、食品加工企業や生産者部会、JAなど関係機関とともに食味官能試験を実施し、産地全体で選定をめざす。これまで10系統・品種を

京都オリジナル干し芋の品種選定と栽培技術開発に挑む



生産者と関係機関による食味比較と意見交換(昨年4月)

明るい未来を持てる環境づくりを

京の食文化や市民の食生活を支える京都市の農業が次の世代に引き継がれるよう、農地行政を通

新会長の抱負

京都市農業委員会
大橋 宗治会長(76)



じて、農家が持続的に農業と営業ができて、明るい未来を持てる環境づくりに取り組んでいきたい。

そのためには、農家の声や地域の声をしっかりと聞き、農地利用の最適化を推進するとともに、将来の農地利用の姿を定めた「地域計画」を、幅広い関係者と連携し、さらに進めていきたい。

京都

京都府支局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075-441-3660

町内外から50人が参加した茶畑カフェ(昨年5月12日)



で、遠方から多くの観光客が訪れてにぎわっており、住民が協力して、農業の活性化と農村コミュニティの強化に取り組んでいることが高く評価された。

(宇治田原町農業委員会)

宇治田原町「1738やんたん里づくり会」 農林水産大臣賞を受賞 豊かなむらづくり全国表彰事業

昨年度の「豊かなむらづくり全国表彰事業」で、宇治田原町湯屋谷地区の「1738(いちななさんはち)やんたん里づくり会」が農林水産大臣賞を受賞した。

同会は、町の観光拠点施設「宗円交遊庵やんたん」を活動拠点とし、オリジナル茶の製作・販売、郷土料理「茶汁」の提供、茶摘み体験をしながら茶畑で食事を楽しめる「茶畑カフェ」の開催など、観光案内とあわせて、お茶の魅力を発信している。

地域住民の自主的なおもてなしが好評



近畿ブロック表彰式(昨年12月12日)。左から西山地域おこし協力隊隊員、浅田副会長、西田会長、木谷副会長、高田役員、広田地域おこし協力隊隊員

農業ビジネス商談会・展示会

10月開催、売り手募集中

10月28日(火)に京都市「みやこめっせ」で開催される「きょうと農業ビジネス商談会・展示会2025」の売り手募集中。府内の農林漁業者と全国の販売業者のマッチングを通じて、販路開拓を支援する。

出展方法は事前登録制のアポイント型商談とフリー商談を選択できる。多くの事業者が商品をPRすることが可能で、販路開拓につながるが期待されている。

締め切りは6月13日(金)。商談PRシート作



昨年も多くの商談が行われた

農deきらきら

木津川市 道野大輝さん、陽子さん

笑顔をつなげる直売所「イロドリブドウ」開設

木津川市山城町のハウスオープンした。彩り豊かなブドウでピオーネ、巨峰、ドウでいろんなイロドリと笑顔を広げたいという願いを込めた店には、2人の子どもが描いたブドウの絵のタペストリーが飾られ、今シーズンもお客さんを迎える準備が進んでいる。

(木津川市農業委員会)



ブドウ畑を紹介する道野大輝さん(右)と陽子さん夫妻

女性委員が「つないで発信」

京丹波町塩田谷・安井地区で、毎年、都市住民好評で、会員登録数が1千人を超えました。

昔から黒豆は「苦勞豆」と呼ばれ、大変手間がかかります。6月中下旬に行う土寄せは、人手が足りません。

黒枝豆の収穫体験と黒豆の加工品が好評

黒枝豆の収穫体験と黒豆の加工品が好評

これからも、地元から農業体験の楽しさを発信し、町内外の皆さまとの交流を通じて、地域の営農組織「京丹波はたるの里」の活動に貢献したいと思っています。皆さまの訪問をお待ちしております。

(京丹波町農業委員会 安井敦子委員)



京丹波はたるの里メンバー(左から2人目)着席の女性が安井委員、黒枝豆の収穫体験

